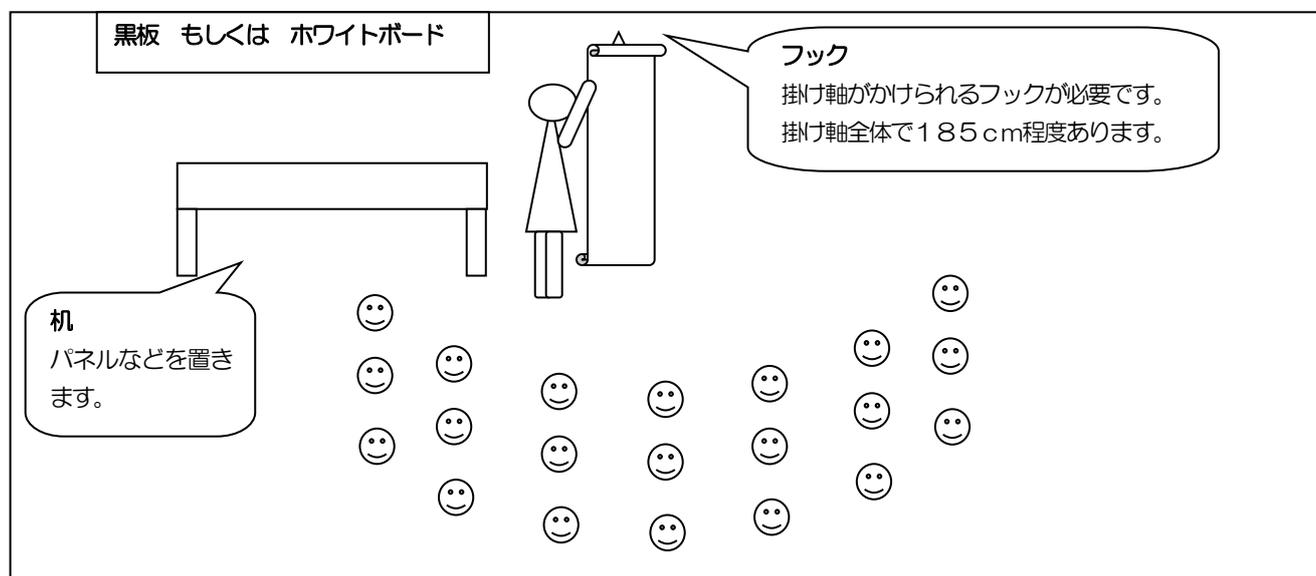


題材名	「日本画って何だろう」【鑑賞】 作品：《春の夜》小茂田青樹 1930年		
ねらい	○掛け軸の鑑賞を通して、日本の文化・伝統について知り、興味・関心をもつ。 ○日本画の特徴や画材について体験的に理解し、日本美術の良さに触れる。 ○美術館や美術文化に親しむ。		
内容	① 導入：【美術館紹介】 ② 鑑賞の導入：【日本らしいもの】キーワードから題材に迫る。 ③ みる：【掛け軸鑑賞】少しずつ広げながらみる。 ④ 解説：【日本画の用具・材料】自然の材料で描かれていることを知る。		
時間	活動	留意点（※）	準備
: ~ :	準備	・和室や床の間があれば使う。 ・掛け軸をかけるフックの高さを確認。	<input type="checkbox"/> 机1台
: ~ :	導入：【美術館紹介】3分 近代美術館を紹介する。 「美術館って何かあるところかな？」 「美術館も作品です！」「椅子もあるよ！」	 <p>「これ、なあ〜んだ？」</p>	<input type="checkbox"/> 近美写真 <input type="checkbox"/> マリリン写真
: ~ :	導入：【日本らしいもの】 分 「日本らしい物や場所ってどんなものがある？」 「和室には何かがあるかな。」 「一段高くなっている床の間、なぜでしょう？」 「昔、身分の高い人が座る場所を一段高くしたのが始まりといわれているよ。」 「今では、文字（書道）や絵の描いた掛け軸を飾ることが多いです。」 「今日は、床の間に飾るのにぴったりな作品を持ってきたよ！」	※「日本らしいもの」をキーワードにして題材に迫っていく。 和室などが学校にある場合は、そこで授業を行い、「和室」や「たたみ」「床の間」の話から進める。 ※生活経験から掛け軸を飾るというイメージをひきだす。	<input type="checkbox"/> 和室写真
: ~ :	みる：【掛け軸鑑賞】 分 ◇うやうやしく箱を出し、興味をひく ◇風帯の説明をする ◇風流人の説明 ◇1段階 「よく見て何が描かれていますか？」 ・花や木 つぼみのつき方や枝振り ・夜 何時ぐらいかな？ ・左端の金粉は何を表わそうとして使った？ ◇2段階 「耳がみえた、何の耳？」 実はミミズクというフクロウの仲間。 ・ミミズクが何をしいるのだろう？ ・ミミズクはどんな気持ちだと思う？ ◇3段階 「もっと下をみてみましょう」 ・この明るさは何だろう？ ◇4段階 「猫が何をくわえているか。」 ・時間を遡ったり、進めたりして物語を考えよう。 ・猫はくわえたものを、何のためにどこへ持って行くのだろう？	※箱の留め具、出し方の説明をする。 ※風帯については、元々は掛け軸を外に飾っていたことから鳥よけのためにつけられたことを補足する。（今は飾り） ※粋な遊び風に、鑑賞を楽しめるよう、掛け軸を段階に分けて、少しずつ広げていく。 ※よくみて理由をつけて発表するように促す。 ※五感を使ったイメージで考えられるようにする。 ※掛け軸の絵の外に何が描かれているのか想像させる。 ※3段階では明るくなってきたことに気付かせ、明るさの元になっているものは何なのか考えられるようにする。	<input type="checkbox"/> 《春の夜》複製画 <input type="checkbox"/> 白手袋 <input type="checkbox"/> 矢筈
: ~ :	解説：【日本画の用具・材料】5分 ・掛け軸 ・矢筈 ・日本画 ・岩絵の具 ・膠 ・春の夜 ・小茂田青樹		<input type="checkbox"/> 解説パネル <input type="checkbox"/> 岩絵の具 <input type="checkbox"/> 膠

：	まとめ：1分		
実施日時	年 月 日 ()	準備開始	： ～
		2校時	： ～
		3校時	： ～
		4校時	： ～
場 所	学校 会場 ()		
人 数	年生 クラス 名 + 名		
進 行	美術館：		
当日準備	<input type="checkbox"/> 掛け軸をかける場所の確認		
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の感想を書く。 墨を使って表現する。等 		

会場図



作品・作家解説

《春の夜》

1930年 彩色、絹、軸 156.4×68.8cm

小茂田 青樹(おもだ せいじゅ)

1891年(明治24年)10月30日 - 1933年(昭和8年)8月28日 大正から昭和初期の日本画家。詩情の画家。

埼玉県川越町(現川越市)に呉服商・小島徳右衛門の次男として生まれる。

17歳で上京。当時は川越町と東京市を結ぶ鉄路がなく、寄宿したのが松本楓湖の隣家であった。その縁もあって楓湖の「安雅堂画塾」に入門。なお、同日に、終生ライバル関係となる速水御舟も入門。画塾では御舟が午前、青樹が午後だった。

1915年(大正4年)の再興院展に「小泉夜雨」が初入選。

その後、肺結核となり川越の実家で静養する。

1918年(大正7年)、第5回再興院展で「菜園」が入選。

1921年(大正10年)、第8回再興院展に洋画的な手法と細密表現の際立つ「出雲江角港」を出品し、横山大観らに推挙され日本美術院の同人となる。

1929年(昭和4年)、杉立社を組織、また帝国美術学校(現武蔵野美術大学)教授に就任。

1931年(昭和6年)、日本画が本来もつ装飾性に眼を向けた「虫魚画卷」を第18回院展で発表。